

# 光が丘・災害時支援ボランティア活動

平成30年1月8日（月・祝日） 光が丘消防署訓練



訓練に先立ち、光が丘消防署長から、署長感謝状の贈呈が行われました。



今回の訓練は発災時の実働訓練として、情報収集訓練が行われました。

- ① 署員不在との想定で、ボランティアのリーダーやコーディネーターを中心に、班編制を実施しました。
- ② 通信手段が途絶、道路なども損壊部があるとの想定で、情報の寄せられた箇所から詳しい状況を確認するのが任務です。各班に指定住所と地図が手渡されます。また、途中での救助作業が必要とされることを考慮して、救助器具を携行します。この救助器具は大きなバールのようなものなど10kgの重量があり、班員が交互に背負って行動しました。
- ③ 指定された住所にたどり着くと、署員が待機していて写真を見せられます。そこには二階から火を噴き出している住宅がありました。ボランティアの任務としては情報収集で消火活動はできないのですが、消火栓や消防車の進入の可否、付近住民の避難誘導など確認しました。
- ④ 署へ報告のため、戻ろうとすると、第2状況が示されました。延焼中の住宅の住人から「2階に逃げ遅れの人がいる」とのことです。そこで、署への情報伝達をするものと、救助活動をするものとに分かれて活動することにしました。しかし、延焼中で隣接建物への延焼危険大の状況では、消火機材を持たないボランティアでは手の出しようがありません。手分けをして現場付近の防災倉庫、スタンドパイプなど使える機材を探しました。

こうした訓練をすることで、事前にどんなことを準備しておかなければならぬか、さまざまなことに気付くことができました。